渡辺一枝トークの会

福島の声を聞こう!

vol.34

こどもたちに、あの日のことを どうつたえていくのか。

あれから９年の月日が流れ、あの年に生まれた子どもたちは、4月には小学４年生になります。あの時小学３年生だった子どもたちが、今年は成人式を迎えるのです。その間に被災者たちの声はかき消され、あったものは巧妙に隠されてきました。

あの時に（そして今も）悩みに悩み、迷いに迷ってきた大人たちは今、この子らに、あの年に起きたことをどう伝え、語りつないでいこうかと模索しているのです。

どうぞ、「福島の声」に耳を傾けてください。伊達市の島 明美さんにお話し頂きます。

島 明美さんプロフィール

福島県伊達市在住。50歳。夫と２人の子どもと４人家族で暮らしている。福島第1原発事故当時から、放射能汚染に関する行政や国の対応に「疑問」と「違和感」を抱いていた。伊達市で起きている放射能防御についての行政の住民対策事業と、全市民の被ばくデータで書かれた「宮崎・早野論文」に対して、科学者や議会を巻き込んで、当事者として情報公開制度を駆使して検証している。「未来につなげるために今できること」を合言葉に活動している。2019年度高木基金助成金を受ける。日隅一雄奨励賞受賞。

日時◆
2020年2月22日（土） 午後4時～6時
開場は午後3:30

場所◆
セッションハウス・ガーデン（東京都新宿区矢来町158 2F）

参加費◆1,500円
参加費は被災地への寄付とさせていただきます

申込受付◇ 2月8日（月）午前11時～
下記の電話にてお名前・人数・お電話番号をお知らせ下さい

主催・お問合せ
セッションハウス企画室
☎ 03-3266-0461
mail@session-house.net
www.session-house.net